
ペルソナ4 ~ 迷いの先に光あれ ~

四季の夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ペルソナ4〜迷いの先に光あれ〜

【Nコード】

N2254Z

【作者名】

四季の夢

【あらすじ】

影時間やタルタロス等の学園都市での闘いが終わったが一人の少年は眠りについてしまった。そして少年を守れ無かったと学園都市を去る一人の男。

それから二年、舞台は学園都市から一つの田舎町・稲羽市へと移る。そこで過去を背負い皆を守る為、瀬多洸夜の闘いが始まる

プロローグ（前書き）

作者は小説が初心者なのでどうか、暖かい目をお願いします。

プロローグ

? 「ん?ここは?」

俺は気が付いたら見知らぬ場所にいた。車の中・・・見たいだな。そして椅子の真ん中に要る見覚えのある男と見覚えのない金髪の美女いた。

イ「ヒツヒツヒツ私はイゴールです覚えておりますかな?」

? 「ああ、覚えてるに決まって要るだろ。俺にワイルドの力やペルソナについて教えてくれたのは他にもない、あんただ。」

そうこの男ーイーイゴールは二年前に世話になったんだ。そこでふつと隣を見てみる。

? 「あんたは?」

俺は隣の美女に聞いてみる

? 「お初にお目にかかります私はマーガレットと言います。以後おみ知りおきを」

？「ああよろしく、ところでエリザベスはどうしたんだ前までは彼女がここに」

イ「エリザベスは現在ここを出ております。ちなみにエリザベスは私の妹でもありますよ」

その言葉に俺は驚く

「妹！？それに出てるって何処に？」

そして今まで沈黙を守っていたイゴールが口を開く。

イ「エリザベスは彼を助ける方法を探すために現実の世界を回っておるのです」

・・・その言葉に俺は目を開く。

？「・・・彼って言うのはやはり。」

俺の言葉に静かに頷くイゴール。

イ「ええ。貴方と同じワイルドの力を持ち二年前に皆を救つ為に眠りについて仕舞ったあの彼です」

「・・・そうか」

その言葉に俺はイゴールから目を背ける。そんな俺にマーガレットが声をかける

マ「そんな顔をしないで下さい、あの子も定期的に連絡を寄越しているので心配なさらずに」

その言葉に俺は

?「いや違うんだ」

マ「えっ?」

?「俺はあいつが、ああなっただって知ってどうすればいいかわかんなくてな、卒業式が終わったらすぐにあの街を逃げ出したんだ。」

俺の言葉を静かに聞いてくれるイゴールとマーガレット。

「その事からずっと逃げていた俺に比べて、エリザベスはあれからずっと頑張ってたんだな。」

俺の言葉にイゴールは

イ「あれは仕方ない事だったので。あれは彼が自分で決めた事、貴方が自分を責める必要はありません」

イゴールの言葉に俺はただ己の情けなさしかなかったそんな時だった。

マ「それで貴方どうするのですか？」

？「えっ？」

マーガレットの言葉について聞き返す俺。

マ「このまま、何もしないままでもいいんですか？」

その言葉に俺は怒りを感じてしまった。

？「うるせえ！お前に何が分かる！・・・俺は逃げたんだぞ。その過去は消えないんだ」

俺はそう言つと、顔を下げる。

マ「でも、未来は変えれますよ。」

その言葉に俺は顔を上げた

マ「たしかに過去は決して変わりません。ですが未来は変わります。ここまで言えば、分かるでしょ」そう言ってくれたマーガレットの顔は何処か優しかった。

？「・・・そうだな、俺にも何か出来るかも知れないな、だが何をしようか？」

イ「実は今回貴方をお呼びしたのはまさにその事なのです」

その言葉に俺は表情が真面目になる。「

？「何かあるのか？」

イ「ゴールはゆっくりと頷く

？「だが影時間もタルタロスも、もう無いんだぞ。」

イ「いえ、実は今度貴方様が行く町で事件が起きます」

「稲羽市で!？」

イ「ゴールは頷く

確かに俺は両親が海外で仕事をするから、弟が叔父さんの家に行くことになり、ついでにお前も来いと言う事になり近々弟と一緒に稲羽市に行く事になったのである。

？「そこで俺に事件を解決して欲しいと」

イ「はい、それと実は貴方様の弟様にもお願いするつもりです」

イゴールの言葉に俺は驚く

？「総司を！？なぜだ？」

イ「それは、運命だからとしか言えません」

「そんな理由・・・はあ

そうだったな、あんたはそう言う人だった」

そう言った俺の言葉にイゴールは笑いながら答える。

「ヒツヒツヒツ理解が早くて助かります。」

そうイゴールが言った瞬間俺は視界が揺れた。

「どうやら、現実の貴方が目を覚ますようですね」

「・・・そうかイゴール、マーガレットありがとう」

「いえいえ、私は何も」

そう言ってヒッヒッヒッと笑うイゴール

マ「ふふふ、ではまた会いましょう・・・瀬多^{せた}洗夜^{しんや}様」

そう笑うマーガレット

洗夜「ああ！またな！」

そうやって笑顔で返す俺

あれ？そういえば俺マーガレットに名前乗ったけ？そう思いながら、俺は視界が暗くなった。

マ「ふふふ、本当エリザベスの言った通り自分一人で全部背負い込もうとして、それで何処と無く放って置けない人だったわ・・・またね洗夜」

洗夜が消えた場所でそう言うマーガレットの顔は何処か寂しいそうだった。

イゴールからの呼び出しから数日がたった。

現在俺は、弟と一緒に稲羽市に向かう電車の中だ。

洸（稲羽市で一体何があるんだ・・・イゴールが俺に頼んだと言う事はペルソナやシャドウ関連か？それともあいつに関係が・・・）
だが、幾らか考えても予測しか立てられない俺は結局ため息しかでなかった。

洸「ハア・・・（こんな事ならあいつ等にも連絡すればよかったな、でも逃げ出した俺の事なんか相手にしてくれないか・・・だけど、あいつ等元気かな）」

とそんな事を思っていた時だった。

総「はっ！」

寝ていた俺の弟――瀬多総司が突然目を覚ました。

洸「おはよう、起きたか？」

総「・・・兄さん」

洸「なんかあったか？」

イゴールが干渉でもしたかな？あいつ夢の中で出て来るし。

総「いや、大丈夫なんでもない。」

洸「そうか、ならそろそろ降りる準備をしろ。間もなく着くぞ」

総「分かってるよ」

稲羽市が見えて来るのを確認して、そう言うと俺達は荷物をまとめて降りる準備をした。

洸「(さて、あの町で一体何が起こるんだらうな)」

キャラ紹介（前書き）

キャラ紹介です

キャラ紹介

瀬多 洗夜^{せただ}《こっや》

二十歳

容姿：灰色の長髪、顔は
上の下

能力：ワイルド

ペルソナ：オシリス

武器：刀（片手剣）

趣味：剣術

性格：仲間・家族思い、優しさと厳しさ半々

本作の主人公でペルソナ4の主人公、瀬多総司の兄

高校を決める時にイゴールが夢に出てなんか色々言われた結果、学園都市の『私立月光館学園』に入学した。それからは、クラスが同じの明彦や美鶴と親友になる。その後、夜に学園都市を散歩していた時に影時間に巻き込まれ、混乱した挙げて学園に行ったが学園の変わりにタルタロスがあり興味本位で侵入し、その中でシャドウと遭遇して調度タルタロスに来ていた美鶴達と合流しシャドウと戦いその影響でペルソナが覚醒し、その後は事情を聞き『特別課外活動部』に入部したがその夜の夢に出て来たイゴールとエリザベスにペルソナについて聞きワイルドの能力説明とペルソナ白書を貰った。

そして3の主人公達が来てからは皆のお兄ちゃんとして影時間を闘い抜いたが、自分の側で人が死んで行き（千鳥は生存）自分の無力を痛感し、そして最後の闘いの後、卒業式を終えた後に主人公の状

態を見て、また仲間を守れ無かったと失望してしまい誰にも会わずに学園都市を逃げ出した。その後日談には参加していない
その後は家に帰りバイトや株等で金を稼いでいたがイゴールとマーガレットの励ましにより、新たに闘う決意をして、弟を守る事そして、まだ見ぬ事件解決の為に稲羽市へと向かう。人間関係

有里 奏（3の主人公）や

ゆかり達からはかなり慕われていて、明彦達からの信頼も厚く洗夜が逃げた後も皆心配していた。

恋愛面

異性では美鶴からの信頼は厚いが今の所は、友達以上恋人未満である。また美鶴自身も皆に何も言わずに去って行った洗夜を一番心配している。

マーガレットがどう思っているかはまだ不明

主なペルソナ

オシリス

容姿

大剣を所持していて、髪は朱の長髪を後ろでまとめている、顔には龍のような仮面を付けている。服装は朱と黒と白のバランスが取れた色の鎧らしき物を着ている背中には朱い翼。

物火氷雷風闇光

無耐ー吸耐吸ー

風耐性

物理無効

ジオ系やムド系を初めとして物理技等も備えている

完全攻撃型のペルソナで

冴夜の相棒

ムラサキシキブ

容姿

本を所持していて、髪は青の長髪で服装は白と桃色の和服に周りには守る様に、金色の羽衣が浮いている。

物火氷雷風闇光

―耐吸耐吸無無

冴夜がイゴールの元で創ったペルソナ、オシリスとは違い魔術や支援魔術で攻撃する。完全サポート型

その他にも多数存在

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2254z/>

ペルソナ4～迷いの先に光あれ～

2011年12月8日00時48分発行